

策定に寄せて

教育長 小林 和 徳

「子どもが成人病だと？なにとぼけたこと言うてんないや。」などと受け止めていた頃が懐かしく感じられます。成人病が生活習慣病と称されるようになった背景の一つ、というよりは憂うべき事態となってきた「子どもの成人病？」の多発が、世に警鐘を鳴らし続けて久しくなります。「食」は本能ですが、本能までコントロールしなければならない。「食」について学ばなければならない。なんと贅沢な人間の生涯学習ではありませんか。他の動物にはないと思われる、「腹が空かなくても食べる、渴きをさほど感じなくても飲む」人間。

この地球上はそんな人間だらけでは決してないのですが、現実、足元の子どもたちに目を向けて見ますと「食教育」は緊急の課題です。過剰に摂取する食生活と体を動かすことを避ける二つの「習慣」がもたらす子どもたちの将来は悲惨です。親よりも先に逝く子ども、仮に医療の力で長生きしたとしても、体を水平の状態に横たえている。これは決して大げさなことではありません。

「柏崎市児童生徒の食育推進プラン」は、ほかならぬ児童生徒が心身ともに健康で、長い生涯を充実して送れることを願って策定いたしました。このプランが契機となって意識啓発が進み、市民総がかりの運動につながっていくことを願うものです。策定にかかわられた関係各位に心から感謝申し上げます。